

林道事業再評価調書

事業名	林道開設事業（森林基幹道）	路線名	ひわちやさかせせん 日和茶坂瀬線																	
事業主体	徳島県	関係市町村	三好市(旧東祖谷山村・旧西祖谷山村)																	
事業概要	【目的】 本路線は三好市東祖谷落合の県道三加茂東祖谷山線を起点とし、同市西祖谷山村坂瀬の県道腕山宮石線を終点とする森林基幹林道で、この林道の開設により、既設道路との相互連絡により地域路網の体系化を推進し、広域的な木材等林産物の需給体制や林業機械の輸送体制を確立し、森林の適正な管理や保全、効率的な森林施業を推進することを目的とする。																			
	【内容】 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">利用区域面積</td> <td style="width: 30%;">3,342ha</td> <td style="width: 40%;">[人工林面積:1,868ha (56%)]</td> </tr> <tr> <td>受益戸数(森林所有者数)</td> <td>347戸</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幅員</td> <td>4.0m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計画延長</td> <td>32,700m</td> <td>(うち平成25年度末の供用予定延長 22,390m)</td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>6,250,000千円</td> <td>(うち平成25年度末の実施予定事業費 4,420,269千円)</td> </tr> <tr> <td>事業予定期間</td> <td>平成2年度～平成34年度</td> <td>(37年間)</td> </tr> </table>			利用区域面積	3,342ha	[人工林面積:1,868ha (56%)]	受益戸数(森林所有者数)	347戸		幅員	4.0m		計画延長	32,700m	(うち平成25年度末の供用予定延長 22,390m)	総事業費	6,250,000千円	(うち平成25年度末の実施予定事業費 4,420,269千円)	事業予定期間	平成2年度～平成34年度
利用区域面積	3,342ha	[人工林面積:1,868ha (56%)]																		
受益戸数(森林所有者数)	347戸																			
幅員	4.0m																			
計画延長	32,700m	(うち平成25年度末の供用予定延長 22,390m)																		
総事業費	6,250,000千円	(うち平成25年度末の実施予定事業費 4,420,269千円)																		
事業予定期間	平成2年度～平成34年度	(37年間)																		
評価項目	【事業の進捗状況】 起点側落合地区で3,051m、奥ノ井地区で2,408m、佐野地区で9,349m、終点側坂瀬地区で7,582mが供用され、平成16年度より新たに3つの工区(奥ノ井上、奥ノ井下、坂瀬上)を着工し、路線全体では、22,390mが完成供用を予定している。 平成20年度から坂瀬工区及び坂瀬上工区において境界問題により工事を休止している。平成21及び23年には、地すべり災害等により工事着手が困難となったことにより計画進度を下回っている。 <div style="text-align: right;">[進捗率:68.5%]</div>																			
	【関連事業の整備状況】 供用区間では、次世代林業プロジェクトの推進に資するため林道を補完した作業路が作設され、平成21年度から平成24年度までに延べ77haの森林整備を実施している。小島工区内にある国有林では、民間企業と四国森林管理局による国民参加型の森づくり活動が行われており、植樹活動など通して企業の環境活動と社会貢献の場としても活用されている。																			
	【社会経済情勢の変化】 ・円高の下での輸入木材製品の増加や経済情勢の悪化による木材需要量の低下など、林業を取り巻く環境は依然として厳しい。こうした情勢の下、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展が望まれ、また、異常気象による土砂災害の防止や二酸化炭素の固定など地球温暖化の抑制に役立つ森林の多面的機能の維持が求められている。 ・本県の森林資源は、この半世紀で、3倍に増加している。特に、スギの人工林は50年生以上が半数以上を占め、成熟期を迎えている。 ・こうした中、県は、平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目標にした「次世代林業プロジェクト」を推進しており、木材生産量の増加、林業従事者の増加など成果を上げている。 ・木材生産部門においては、従来の架線系木材搬出システムに比べ、2倍以上の生産性を有する「高密路網と高性能林業機械を組み合わせた新システム」の整備、普及を進めており、高密路網の中核となる林道の整備を急ぐ必要がある。 このような背景の中、当市内の林業は、建設業から林業へ参入するなど林業振興の向上が見られる。																			
【計画上重要な部分の変更の必要性の有無】 無し																				
【事業効果の発現状況】 供用開始した区域を利用して、平成2年度から平成24年度までに延べ1,666haの森林整備を実施している。今後、供用区間が増加するのに伴い、さらに森林の整備や保全のための施業が進んでいく見込みである。 <div style="text-align: center;">[費用対効果] 1.47 (国の採択基準は1.0以上)</div>																				
【受益者・関係機関の意向】 林道の開設が進むことで森林へのアクセスが向上することにより、森林所有者の関心が高まり森林施業の実施に繋がる。このことから、適正な森林管理が行われ長期的な森林資源の循環が行われると共に森林資源の向上に繋がる。このことにより雇用も安定し林業関係は勿論のこと地域全体の活性化が図られる。また、緊急時の避難路及び迂回路の機能も持ち合わせることから地元三好市をはじめ森林所有者等も林道の開設を強く望んでいる。																				
【事業の実施方針】 継続して事業を実施する。																				